

平成 28 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業



大多喜中学校における銃剣道の模擬授業

平成 28 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業（主催：日本武道館、全日本銃剣道連盟、日本武道協議会、後援：スポーツ庁）は 12 月 9～11 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。本事業は平成 24 年度から完全実施された武道授業の充実へ向け、銃剣道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究協議することを目的として実施され、前回に引き続き大多喜町立大多喜中学校の協力を得て模擬授業を行った。

■ 1 日目（9 日）

開講式では、はじめに鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立った。

「念願の銃剣道授業が初の実践校として神奈川県平塚市立土沢中学校で始まりました。研究事業に参加された先生が銃剣道の授業導入を实践され、この事業の大切さを感じます。この成果をさらにステップアップしていただき、また、学校の事情や現況を研究者間で情報交換していただき、実をあげていただければ幸いです」

次に三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶に

立った。

「中学校武道必修化も 5 年が過ぎようとしており、大きな事故もなく実施されています。これから次期学習指導要領改訂に向けた活動が本格化します。日本武道協議会として武道 9 種目が並列明記されるよう要求していきます。銃剣道授業の実践校が 1 校でも増えるよう、しっかり取り組んでいただき、本事業の成果を期待したいと思います」

続いて、昨年度銃剣道授業を初めて行った清水陽介研究者（土沢中教諭）より、授業報告があった。清水研究者は、銃剣道の経験はないが、昨年、本研究事業に参加し、銃剣道の授業を初めて実施した。

「本校は体育が好きな生徒が多く、一生懸命取り組んでいたため、授業がやりやすかった。私自身も回数を重ねるごとに余裕が出てきて、研究事業で学んだことを活かした。生徒にとって木銃は見たことも触れたこともない珍しいものであり、持ったときに、楽しそうに喜んで触れていた印象がある。遊びの要素を用いたボール突きでは、誰が一番きれいに突けるか競い合わせることで、生徒のモチベーションを維持できた。短い 5 時間の授業時間の中でも実りのある充実した授業だったのではないかと思います」

その後、翌日の模擬授業に向けて討議、実践研究が行われた。その中でこれまでのボール突きは動いているものを突くので難しいという意見が出た。筒状に巻いた段ボールをカラーコーンに乗せてティーとし、その上にボールを乗せて突くことで、止まった状態のボールを突くことができるよう工夫がなされた。また、足さばきの練習として一人に動かす方向を決めさせ、その方向へ動く練習方法、木銃につけた団扇を目標物として突く練習方法も試された。

■ 2 日目（10 日）

大多喜中学校の生徒 19 名の協力を得て、同校剣道場において模擬授業を行った。初めに石川慎也研究者より武道 9 種目の説明および銃剣道の歴史についての講義が行われた。続いて清水研究者が教員、田村聖一研究者が授業協力者役となり、授業が進められた。準備運動をした後、礼法、木銃の説明、構え・直れ、足さばきの指導、直突の練習が行われた。

足さばきの指導では、まず教員が手本を示し、グループに分かれてスムーズに八呼称ができるよう自分たちで方法を考えて練習する時間がとられた。その後、1 グループずつ発表会が行われた。

直突の練習では、新聞紙突きに加え、前日の検討協議で出された、壁に貼った的に向かって止まった状態のボールを突き、当たった場所に依じた得点を競うゲームが行われた。グループで練習をした後、「第一回全国的あて選手権大会」と題して団体戦を行った。点数化して競い合うことで勝敗がわかりやすく、生徒がこの日一番盛り上がった。その後、二

人組で、左右の突きが行われた。

午後は田村研究者が教員、清水研究者が授業協力者役となって、左右の払い突き、銃剣道の形 5・6 本目の指導が行われた。説明と示範の後、4 人組での練習が行われた。右の打ち払いは木銃につけた赤テープの位置で相手の木銃の黄色のテープの部分の部分を打ち払う、左の打ち払いは白テープの位置で相手の木銃の黄色のテープのところを打ち払うようポイントの説明があった。

生徒が書いたアンケートでは、おもしろかったこととして「的あてゲームが面白かった」、「木銃を払う時の音が気持ちよかった」、「左の払いが難しかったが、できたとき嬉しかった」といった感想が出された。また、苦しかったこと、つらかったこととして「払いがうまくできなかった」、「形が難しかった」、「動きを覚えるのが大変だった」、「初めて構えたときとても腕が疲れた」などが上がった。

その後、研修センターへ戻り、模擬授業の反省、振り返り、確認が行われた。今回は授業協力者を用いて、見本を生徒に提示することで分かりやすく指導ができたが、実際の現場で先生 1 人だともっと指導が難しくなるのではとの意見が出された。

■ 3 日目（11 日）

最終日は、少ない時間数でも銃剣道の授業が実施できるよう、清水研究者が実際に行っている 5 時間の単元計画を検討した。閉講式では、石川研究者が講評を、吉川英夫日本武道館振興部長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。



右の打ち払い



集合写真